

「子どもの水辺」再発見プロジェクトの 推進に活用が可能な各種施策

2021.3

■文部科学省

体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト … 01
【国の支援事業】

■国土交通省

水辺の楽校プロジェクト … 02
【国の支援事業】

■独立行政法人国立青少年教育振興機構

「子どもゆめ基金」事業 … 03
【活動への助成】

■公益財団法人 河川財団

「河川基金」助成事業 … 04
【活動への助成】

■独立行政法人 環境再生保全機構

地球環境基金 … 05
【活動への助成】

■国土交通省・環境省

全国水生生物調査 … 06
【その他活動支援】

■公益財団法人 日本環境協会

こどもエコクラブ事業 … 07
【その他活動支援】

■公益財団法人 河川財団

子どもの水辺サポートセンター … 08
【その他活動支援】

体験活動等を通じた青少年 自立支援プロジェクト

01

国の支援事業

活動への助成

その他活動支援

概要

体験活動の推進は、青少年の健全育成及び人格形成のために必要不可欠なものである一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、青少年の日常生活において、遊びや体験の場、物に触れるなどの体験活動の機会の減少や格差が課題となっています。

そのため、文部科学省では、**体験活動の機会を充実させるための事業**を実施するとともに、**体験活動に関する普及啓発**や調査研究、民間企業が実施する優れた取組に対しての顕彰事業を実施することにより、社会全体で体験活動を通じた青少年の自立支援を一層促進することとしています。**(下線が自治体や民間団体向けの支援)**

体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト

令和3年度予算額(案)
前年度予算額

70百万円
27百万円



体験活動等の推進は、青少年の健全育成及び人格形成のために必要不可欠なものであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、青少年の日常生活において、遊びや体験の場、物に触れるなどの体験活動の機会の減少や格差が課題となっている。そのため、体験活動の機会を充実させるための事業を実施するとともに、体験活動に関する普及啓発や調査研究、民間企業が実施する優れた取組に対しての顕彰事業を実施することにより、社会全体で体験活動を通じた青少年の自立支援を一層促進する。

1 全国的な普及啓発の実施

3,595千円(3,595千円)

家庭や企業、社会教育団体が体験活動への理解を深めていくためのフォーラムを開催するなど、全国各地で体験活動等を定着させるための普及啓発事業を実施するとともに、関係団体間の連携を促進する。
(青少年の体験活動等の必要性発信・・・2箇所)
(青少年の体験活動の推進・・・1箇所)

2 青少年の体験活動の推進に関する調査研究

6,408千円(6,408千円)

これまでに体験活動が青少年の心身の健全な発達にどのような役割を果たしてきたかを検証し、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、中長期的に取り組むべき方策をまとめる。
(1箇所)

3 子供たちの心身の健全な発達のための自然体験活動推進事業

48,446千円(新規)

新型コロナウイルス感染症拡大により、子供たちが野外で体を動かす機会が減少するなど、子供たちを取り巻く環境の閉塞感を打開することが喫緊の課題であることから、これまで得られた知見を活用し、青少年団体等の取組の効果を一層高めるために支援することにより、自然体験活動の機会の充実を図る。
《内容》 自然体験活動の実施 ○短期キャンプ 21地域×3回

【対象者・事業種別等】

- 1 国(直接事業)
国 → 教育委員会/民間団体等(委託事業)
- 2 国 → 教育委員会/民間団体等(委託事業)
- 3 国 → 民間団体等(委託事業)
- 4 国(直接事業)

4 青少年の体験活動推進企業表彰(教育CSRシンポジウム)

5,260千円(5,260千円)

社会貢献活動の一環として青少年を対象に優れた実践を行う企業を表彰し、その取組を全国に広く紹介することを通して、青少年の体験活動の推進を図る。【令和元年度実績】文部科学大臣賞 2件(大企業1件・中企業1件)、審査委員会優秀賞 8件(大企業7件・中企業1件)、審査委員会奨励賞 8件(大企業7件・中企業1件)

【その他、事業企画評価委員会の開催 5,937千円(5,937千円)】

【事業イメージ】※自治体や民間団体向けの支援



カヌー

川下り



問合せ先



文部科学省

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課

東京都千代田区霞が関3-2-2 TEL.03-6734-4111 (2056)

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm

水辺の楽校プロジェクト

02

概要

国土交通省では、「人々の関心を高める魅力ある川づくり」の一環として、地域一体となった子どもたちの自然体験の場づくりを行っています。

「子どもの水辺」における環境学習や自然体験活動を進めるにあたって河川の整備が必要な場合に、自然の状態を極力残しながら瀬や淵、せせらぎ、ワンド等の自然環境を保全・復元するとともに、子どもたちが安全に自然に出会えるよう河岸等へのアクセス性の改善（水辺に近づく護岸整備）等を行っています。

令和元年度末現在、全国で288箇所が登録されており、各地域の特色を活かした様々な取組みが展開されています。

【登録事例】



江の川水系江の川 水辺の楽校
(広島県安芸高田市)



「水辺の楽校」のイメージ図



安倍川水系安倍川 水辺の楽校
(静岡県静岡市)

問合せ先



国土交通省

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

東京都千代田区霞が関2-1-3 TEL. 03-5253-8111

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/gakkou/index.html>

「子どもゆめ基金」事業

(独立行政法人国立青少年教育振興機構)

03

国の支援事業

活動への助成

その他活動支援

概要

本事業は、未来を担う夢をもった子どもの健全育成を推進するため、地域の民間団体が行う様々な体験活動や読書活動への助成を実施しています。

【助成対象団体】

社団法人や財団法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間団体

【助成対象となる事業内容】

①子どもの体験活動の振興を図る活動に関する助成

ア 子どもを対象とする体験活動

・自然観察、キャンプなどの自然体験活動 など

イ 子どもの体験活動を支援する活動

・子どもの体験活動に関する指導者養成

※その他、「子どもの読書活動の振興を図る活動に対する助成」などの事業内容が該当

【活動規模別等の助成額】

活動規模	参加者を募集する範囲	標準額 (目安)
全国規模	24都道府県以上で募集	300万円
都道府県規模	都道府県全域又は複数都道府県にて募集	100万円
市区町村規模	市区町村単位又は複数市区町村にて募集	50万円

【助成活動イメージ】



問合せ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部助成課

東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL.0120-579081

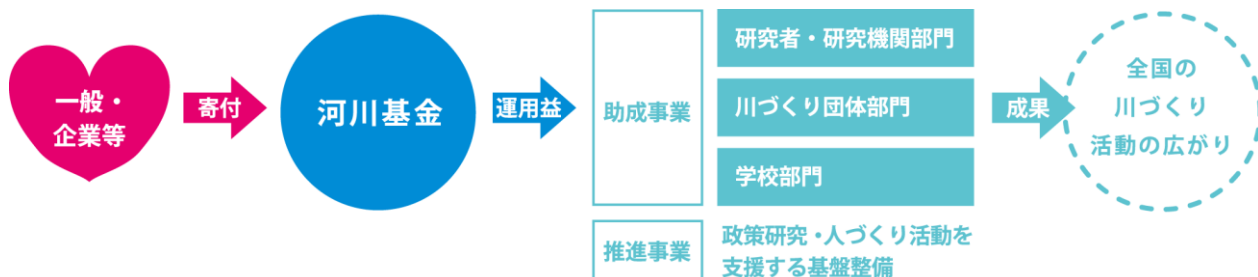
<https://yumekikin.niye.go.jp/>

概要

多方面の協力により造成され、河川などの整備・利用及び河川環境に関する調査・研究、川づくり団体の活動や河川教育を支援しています。

河川基金（平成28年度助成事業より、名称を「河川整備基金」から「河川基金」に変更）は、民間の協力を得て河川整備を緊急に推進するため、政府の閣議了解に基づき昭和63年に設立されました。

河川基金では、その運用益をもちいて、河川に関する様々な調査・研究、市民団体等の川づくり団体が行う河川への国民の理解を深める活動、学校教育の現場において河川・流域を通じて環境・防災・歴史文化等を学習する河川教育の支援をしています。



【河川基金助成の3つの部門】

【関連】

研究者・研究機関部門 (50-300万円※)

2020年度：95件

河川や流域に関係する調査・研究を行う、研究者や研究機関への助成
※ジュニア研究者：20-30万円



写真提供：九州大学大学院 教授 矢野真一郎様

川づくり団体部門 (30-500万円)

2020年度：84件

河川や流域への理解を深めたり、健全な姿に変えるための活動などを行う市民団体等（川づくり団体）への助成



写真提供：筑後川まるごと博物館

学校部門 (10-50万円)

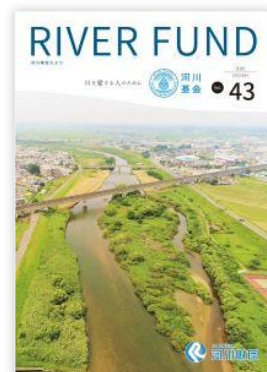
2020年度：72件

学校教育現場で、河川・流域を通じて防災や環境等を学習する河川教育に取り組む、小・中・高校等への助成



写真提供：ろりぽっふ学園ろりぽっふ幼稚園

河川基金だより「RIVER FUND」では、様々な川づくり活動に取り組む皆様にとって、その活動の参考となるような Good Practice! についての情報発信と共有を目指しています。（4月・10月発行）



【募集期間】

10月1日～11月15日頃（令和2年時点）

問合せ先

公益財団法人 河川財団 基金事業部

東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2階
TEL.03-5847-8303

<https://www.kasen.or.jp/kikin/>



概要

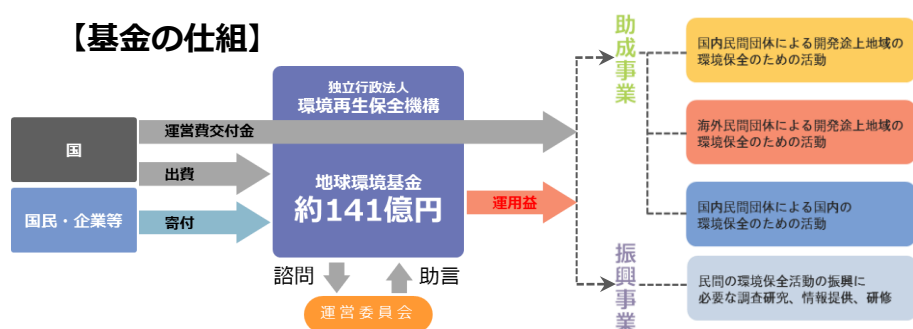
国と国民の皆様からの資金拠出に基づいて基金を設け、その運用益等を用いて民間の非営利団体（環境NGO・NPO）が行う環境保全活動への助成等の支援を行っています。

地球環境基金は、1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」（いわゆる「地球サミット」）を契機に、1993年に創設されました。

地球環境基金は、その運用益等をもちいて、国内外の環境NGO・NPOが行う自然保護・保全、森林保全・緑化、地球温暖化防止、循環型社会形成、環境教育などの環境保全活動に対して、助成金を交付することで活動の支援を行っています。

また、基金運用益からの助成とは別に、地球環境基金企業協働プロジェクト第一号として、一般社団法人日本釣用品工業会からの寄付により、水辺の環境保全活動に対して助成する「LOVE BLUE助成」を実施しています。

【基金の仕組み】



【助成メニュー例】

「LOVE BLUE助成」

一般社団法人日本釣用品工業会より当基金に寄付された資金をもとにした、清掃活動など水辺の環境保全活動に対する助成メニューです。



【助成制度概要】

○募集期間：2020年11月5日～12月2日（2021年度助成募集時）

○助成件数：180件（2020年度）

○助成金額：年間50万円～1,200万円※

※助成メニューによって異なります。詳しくは当基金HPをご覧ください

https://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/2020_info.html（2021年度募集について）



問合せ先



独立行政法人 環境再生保全機構

地球環境基金部

神奈川県川崎市幸区大宮町1310番ミューザ川崎セントラルタワー
TEL.044-520-9505

<https://www.erca.go.jp/jfge/>



全国水生生物調査

06

国の支援事業

活動への助成

その他活動支援

概要

国土交通省と環境省では、川の生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、地域の皆様のご協力をいただいて『全国水生生物調査』を実施しています。

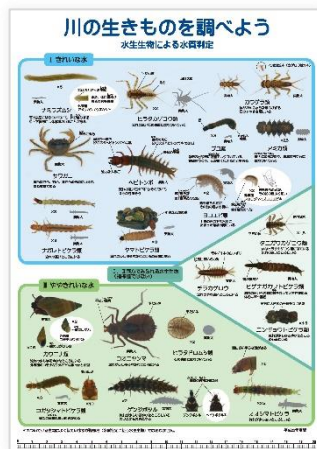
河川に生息するサワガニ、カワゲラ類等の水生生物の生息状況は、水質汚濁の影響を反映することから、それらの水生生物を指標として水質を判定することができます。この調査は、子どもたちにもわかりやすく、高価な機材等を要しないことから、誰でも簡単に参加できることが大きな特長です。

また、調査を通じて身近な自然環境に接することにより身近な環境問題への関心を高める良い機会でもあることから、国土交通省と環境省では、昭和 59 年度から全国水生生物調査を実施しています。

- 各地方整備局等の窓口（一級河川直轄管理区間に関するもの）
http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/toiawase.html
- 各都道府県の環境部局（上記以外）
https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/etsuran/list_pref.html



【水生階級と指標生物】（以下は下敷の例）



【平成30年度調査結果概要】

○参加者数・参加団体・調査地点数

平成30年度の参加者は50,803人（前年度54,981人）でした。

○水質判定結果

平成30年度は、全調査地点の65%の地点で「きれいな水」と判定され、前年度（63%）より2ポイント高くなりました。

問合せ先



国土交通省



環境省

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

東京都千代田区霞が関2-1-3 TEL. 03-5253-8111

環境省 水・大気環境局 水環境課

東京都千代田区霞が関1-2-2 TEL. 03-3581-3351

こどもエコクラブ事業

07

国の支援事業

活動への助成

その他活動支援

概要

こどもエコクラブでは、子どもたちが自分の興味・関心に応じた環境活動を継続的にを行っています。周囲の大人や地域の多様な主体が子どもたちをサポートしながら、多彩な環境保全活動の環を広げ、子どもたちの「未来をつくる力」の育成と地域の環境力を高めています。

こどもエコクラブには、毎年10万人の子どもたちが登録・活動しています。その中でも川やワンドなど、水辺で自然観察や生き物調査などの活動をするクラブは数多く、子どもたちにとって「水辺」はとても興味深いフィールドとなっています。

そこで、子どもたちが安全に活動できる「子どもの水辺」登録地を全国のクラブに広く紹介するとともに、水辺を活用した環境学習プログラムや各地の水辺の活動事例、クラブの活動レポートに対するメッセージ送付等の情報提供を通して、水辺をフィールドとする子どもたちの環境活動を支援します。

【環境プログラム事例】



子どもたちの年齢や学校の授業のねらいに合わせたプログラム

水辺の自然観察や水質チェックなど、指導者向けのマニュアルおよびワークシートと共にご提供しています。

【全国のクラブの活動事例】



活動レポートの
エール
メッセージ例

生き物採取と水質判定の活動 【茨城県那珂川】
逆川こどもエコクラブ（茨城県水戸市）
地域でビオトープ作りやホタル保全活動を継続的に実施。



ワンド観察、水質調査(生物指標、COD他)、
ごみ調査と回収 【大阪府淀川】

高槻市立第六中学校・自然観察同好会（大阪府高槻市）
地域の川の観察や清掃、校内で水辺の生き物の飼育を行う。

ワンドには淀川にしかない種類をふくむ、たくさんの在来生物がくらしています。外来種が多く流れ込んでワンドの様子が変わらないうえ、これからも継続して観察していこう！

問合せ先



こどもエコクラブ

公益財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1丁目10-5 TMMビル5F

TEL.03-5829-6359

<http://www.j-ecoclub.jp/>

子どもの水辺 サポートセンター

08

国の支援事業

活動への助成

その他活動支援

概要

川や水を素材やフィールドとする学習活動等を通じて、
川への理解を深めるための調査研究や活動支援を実施しています。

子どもの水辺サポートセンターは、国土交通省、文部科学省、環境省の連携により平成11年度より進められている『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』の推進・支援組織として平成14年7月に財団法人河川環境管理財団（現：公益財団法人河川財団）内に設立されました。

子どもの水辺サポートセンターは、水辺の活動に関する各種情報提供、学習教材の作成・提供、川の安全利用・啓発、人材育成の支援など、各省庁・団体等と連携し、水辺での体験活動・環境学習がより広がるよう研究・支援を行っています。



水辺の安全ハンドブック
河川での安全利用についてまとめた資料



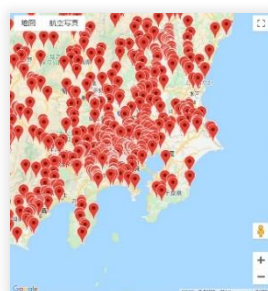
川を活かした体験学習プログラム
学校関係者向けの河川体験プログラム集



水教育ガイドライン
水教育の指針や体系化した目標やカリキュラムの事例等を掲載



No More 水難事故
河川等での水難事故の統計に関する資料



全国の水難事故マップ
水難事故の発生箇所や状況をWEB上に表示

【関連】

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（RAC）と連携して、「川の指導者」の養成を支援しています。



問合せ先

公益財団法人 河川財団 子どもの水辺サポートセンター

東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2階
TEL.03-5847-8307

<https://www.kasen.or.jp/mizube/>

